INVITATION

Ehime University Hospital ［愛媛大学医学部附属病院広報誌］

Vol. 20
2010

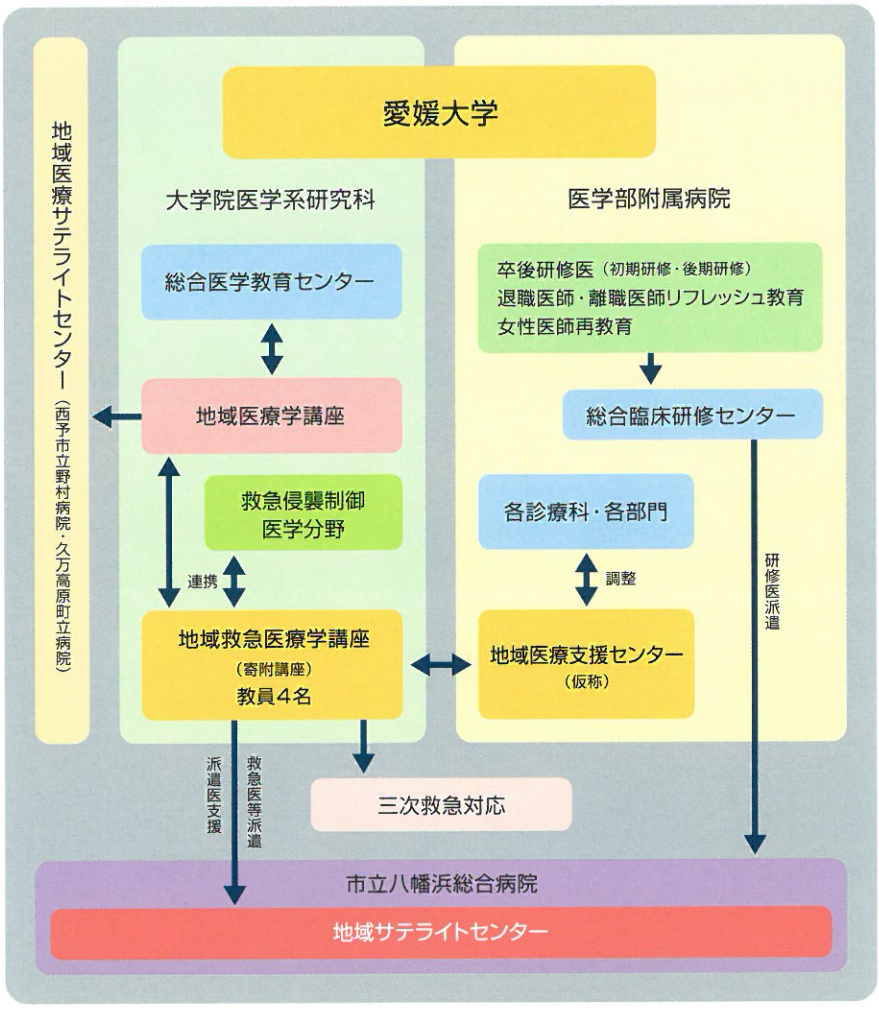
●特集 地域医療を支援する寄附講座

患者から学び、患者に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

八幡浜・大洲圏域地区における「持続可能な救急医療サービス」の提供を支援する

地域救急医療学講座 教授 本田和男 医師



PROFILE

ほんだかずお◎八幡浜市出身。京都大学医学部卒業、1997年から愛媛大学医学部へ。がんの治療のために遺伝子組み換えをしたウイルスを使って新しい遺伝子を癌に導入し、がん細胞を殺す研究や、肝臓移植や肝癌の手術のときに肝臓にかかる負担を軽くする研究など論文・学会発表など多数。趣味は犬の散歩。

八幡浜・大洲圏域地区の救急医療を支援するため、愛媛県の寄付により開設されたのが「地域救急医療学講座」です。八西地区（八幡浜・伊方町）は深刻な医師不足に悩まされており、市立八幡浜総合病院では水曜と土曜の救急患者の受け入れを中止せざるを得ない状況に追い込まれていました。このような状況では、八西地区の住民の方々が安心して救急医療を受けることができません。そこで、平成26年3月までの4年間、持続可能な救急医療サービスを提供するためのインフラ整備と医療従事者の育成・確保を愛媛大学が支援していくことになりました。

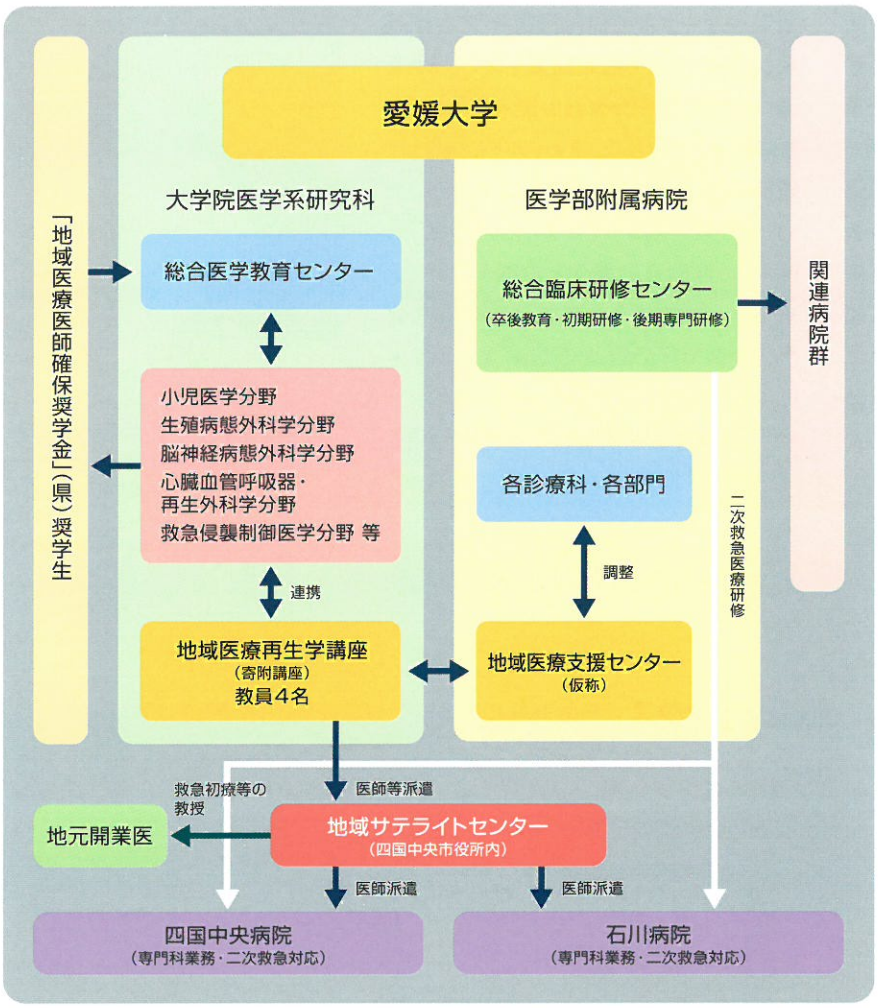
大学院医学研究科内に「地域救急医療学講座」を設置。4名の医師（外科1名、内科2名、小児科1名）がこの講座に所属します。4名の医師は、市立八幡浜総合病院に設置された「地域サテライトセンター」にて救急医療を支援するほか、医師の育成・確保や、救急医療に関する教育・研究などに従事します。また、医学部生や研修医を市立八幡浜総合病院へ派遣し、現地で教育・指導を行います。

八西地区では救急医療に従事する医師の数が不足していたわけですが、愛媛大学から医師を派遣することでマンパワーを増やすことができました。結果、5月12日から市立八幡浜総合病院では、今まで中止されていた水曜の救急患者の受け入れを再開することになりました。

人が増えれば現場は元気になります。どうやって医師を確保していくのか、どうすれば医師を呼び込む環境を作ることができるのかということは、八西地区の医療現場における最大の課題です。本講座では、医学部生と研修医を市立八幡浜総合病院へ派遣し、現地で臨床研修を行いますが、八西地区で研修を受けた学生や研修医が、将来、八幡浜へ戻ってきてくれるような道を作ることができればと考えています。医師の確保を含め、八西地区の救急医療サービスが安定して提供されていくよう、環境の整備に努めていきます。

地域の病院や医療関係者への支援を通じて、宇摩地区の地域医療再生を目指す

地域医療再生学講座 教授 畠山隆雄 医師　地域医療再生学講座 教授 今川 弘 医師



PROFILE

はたけやまたかお(左)◎市立宇和島病院からサテライトセンターへの異動。石川病院では地域医療・救急担当の副院長。専門は脳神経外科。
いまがわひろし(右)◎愛媛大学医学部附属病院心臓血管外科から、昨年10月より石川病院の副院長。4月から現職。専門は心臓・血管外科。

宇摩地区の医療再生を図るため「地域医療再生学講座」が、県の寄付により開設されました。平成22年4月から平成26年3月までの4年間、宇摩地区の診療環境の向上を目指し、医療従事者の育成や医療環境の整備を行うのがこの講座の目的です。

この講座には脳外科・心臓血管外科・小児科の計4名の医師が所属し、宇摩地区の救急医療等の支援を行っていきます。具体的には、医学部内の小児医学分野や生殖病態外科学分野、脳神経病態外科学分野、心臓血管呼吸器・再生外科学分野及び救急侵襲制御医学分野と連携し、「地域サテライトセンター」を通じて、四国中央病院と石川病院において専門科業務や二次救急医療の支援を行うほか、地元開業医への救急初療の教授なども行います。

現在、宇摩地区の医療現場は医師不足や高齢患者の増加などの様々な問題を抱えています。特に救急医療は危機的状況にあり、救急患者の約2割が県外へ搬送されているのが現状です。宇摩地区の医療関係者は懸命に診療にあたっていますが、このままでは救急医療が成り立たなくなる恐れがあるのです。救急医療の崩壊は、ひいては地域医療そのものの崩壊へと繋がってしまいます。そんな宇摩地区の医療環境を改善するお手伝いを「地域医療再生学講座」はしていきたいと考えています。

この講座の目標は、宇摩地区を住民の方々が安心して医療を受けられる地域にすることです。しかし、あくまで地域医療の主体は宇摩地区の病院や医療関係者の方々です。まず我々は、宇摩地区の医療現場の中に入り救急医療の実態を把握すると共に、関係者の方々との信頼関係を築いていきたいと考えています。そして、現場の方々と対話しながら、この講座が宇摩地区の医療のためにできることを見極めていきます。平成26年3月までの4年間、各病院や関係者の方々の立場や考えを尊重しつつ、現場の方々と共に宇摩地区の地域医療をより良いものにするため尽力します。

内子町と協力し、健康実態調査、対策、そして結果がでることを1つの目標に

地域生活習慣病・内分泌学講座 教授 松浦文三 医師

内子町の寄附による「地域生活習慣病・内分泌学講座」が4月からスタートしました。平成27年3月までの5年間の期間です。専任教員として、私と三宅映己助教が担当し、愛媛大学とサブセンターである済生会小田診療所で教育、研究、診療を行います。生活習慣病を含む内分泌代謝領域は患者数も多く、教育・研究・診療上、ニーズの高い領域です。また病態栄養・栄養治療領域は、全ての診療科に関係しています。高齢化の進行とともに、これら内分泌代謝疾患、病態栄養の課題はさらに重要性が増しています。しかしながら内子町では、医師不足も深刻です。こういった困難で複雑な地域の状況に対応しつつ、愛媛大学内においても内分泌代謝、病態栄養の卒前、卒後教育を果たそうとする講座です。私は学生時代に、医療系のサークルの保健医療研究会に所属し、フィールドで健康調査を行い、それを基にした生活習慣改善の提案を医師とともに行ってきました。フィールドワークは、医師になっても機会があればまた行いたいという思いを持っていました。そういう意味では、今回良い機会と役割を頂いたと思っています。それと初期研修は済生会小田病院で行いましたので、非常に縁を感じる地域です。これからも、プライマリ・ケアという意識をもち、なおかつ専門領域をもった医師でありたいと思っています。また、そういった医者を育てていきたいと思っています。

PROFILE

まつうらぶんぞう◎1984年愛媛大学医学部医学科卒業。1985年～89年は済生会小田病院に勤務。1996年から当院第三内科に勤務。専門領域は内分泌、代謝、消化器。趣味は歴史小説の読書。

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

ボランティアさん200人達成

平成22年2月22日（月）に、本院ボランティアが200人に達しました。院内及び地域の皆さんのご尽力により、活動員数として全国の国立大学附属病院の中で日本一です。全ての患者さんのため、ボランティアと病院職員が協働してより良い環境が醸成されつつあります。ボランティアさんをお見かけした時には、皆さんの暖かいご声援をお願いします。

安心して暮らせる東温市

平成22年1月19日（火）に東温市中央公民館で、地域・行政・病院が協働し、在宅介護者の精神的負担等軽減を図る目的で「介護者支援ボランティア活動」始動に向けてシンポジウムを行いました。東温市老人クラブ連合会が中心となり約300人が参加。田渕典子看護部長は「急性期医療の現場から思うこと」と題して講演をしました。

編集後記

今年の桜はとても綺麗でしたね。愛大病院情報誌INVITATIONの表紙も、美しい桜の花びらのような新人達であふれています。特集では、この春からスタートした3つの地域医療学講座にスポットをあてました。地域医療再生の希望にあふれたスタートです。さて、地域と言えば愛大病院を支えて頂けるボランティアさんの数が200人を超えて、国立大学附属病院中、日本一になりました。愛媛の人々を愛し、愛媛の人々に愛されて、地域から世界に伸びる愛大病院になりたいと思っています。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長 檜垣實男

◎表紙の人
病院長 横山雅好（泌尿器科学教授）
総合臨床研修センター長 高田清式
看護部長 田渕典子
新人研修医、看護師
―看護学科校舎の前にて―

愛媛大学医学部附属病院
〒791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel.089-964-5111（代）
ホームページ http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/